

責任ある国際農業投資の促進のための高級実務者会合  
平松審議官冒頭挨拶（ポイント）

- 本日、皆様方の出席を得て、「責任ある国際農業投資の促進のための高級実務者会合」を開催できることを喜ばしく思う。共催者の世銀、FAO、IFAD及びUNCTAD、会場を提供してくれた米国政府に感謝。本日の会合のため集まってくれた皆様方を心から歓迎。
- 食料安全保障は、喫緊の世界的課題。昨年の食料価格高騰は、国際的な食料システムの脆弱性を浮き彫りにした。飢餓人口の増大や食料需給を巡る基本的条件の不安定化に根本的に対処するためには、農業投資・援助の促進が不可欠。これは特に食料危機を受けて様々な国際会議で謳われ、多くの途上国において実施に移されてきた。中でも海外からの農業投資は、途上国の生産力の増強について重要な役割を果たしてきており、今後ともこれを促進していくことが重要。
- 一方、外国による農地取得が、投資受入国の社会的・政治的安定、環境や水の保全、食料安全保障等に負の影響を与える可能性もある。これを捉え、国際農業投資の増大を「農地争奪」と批判する意見も聞かれる。
- このような状況に対し、今必要とされているのは、国際農業投資によって生じ得る負の影響を緩和しつつ、投資の増大によって世界全体の農業開発を推し進めるといふ包括的なアプローチだと考える。つまり、投資受入国の政府、現地の人々、そして投資家という3者の利益を調和し最大化する、「責任ある国際農業投資」を促進すること。
- こうした観点から、我が国は7月のG8ラクイラ・サミットの機会に「責任ある国際農業投資」を呼びかけ。今般この会議を主催。
- 「なぜ日本はかくも熱心に本件に関心を向けているのか」と問われることがある。私は、「世界の持続的な農業と食料安全保障を考える上で、これほど重要な課題はあろうか」と答える。

- 世界一の食料純輸入国である我が国にとって、世界の農業の持続的発展は最大の関心事の一つ。故に我が国は農業分野の主要援助国であり、国際的な投資も促進。
- また、我々は食料価格高騰とそれに伴う相次ぐ輸出規制が引き起こした不安を他の食料輸入国と共有する。投資・援助促進とともに国際食料市場への信頼回復が急務。
- 我が国はまた、国際農業投資の分野で経験を有している。ブラジル・セラード地域における日伯共同事業の結果、同地域は世界有数の大豆生産地に変貌した。
- 今回の会議は本件に関する初めての本格的な国際会議。主要関係者の参加を得て、「責任ある国際農業投資」の促進を図るための国際的枠組みや行動原則について、活発かつ充実した議論が行われることを期待。このテーマについて、このように世界中から多数の高級実務者が集まって議論するということで、会合の内容に大きな注目が集まっている。
- 本件に関するグローバルな共同対応の方向性を示す確かな一歩が踏み出されることを確信しつつ、私の冒頭挨拶を締めくくる。

(了)